

＊すべての設問は、「次の文章を読んで、後の問いに答えよ」という大前提のもとにある。まず読むこと。
＊正しく読めていなければ、解けないのは当然であるが、正しく読めれば、それだけで解けるわけではない。
＊現代文の設問を「正しく解く」とは、各設問要求に対して、下記の三要件を満たす対応を行うことである。

〔「正解答」であるための三要件〕

- ① 構文の正しさ（論理性）……設問箇所と設問要求とに対応した正しい**構文（主一述、接続関係）**になっているか
（例） 問「したがって、Aは Bである」とはどういうことか？ （接続語も踏まえた同義置換問題）
答「～が……であるから、S（＝A）は T（＝B）であるということ。」（S－TはA－Bの置換構文）
（例） 問「Aは Bである」というのはなぜか？ （論拠型の理由説明問題）
答「Aは C（≠B）であるから。」
- ② 内容の正しさ（客観性）……本文の**重要語句（指示対象やKW）**中から必要なものを正しく適用しているか
（例） 問「それは、戦争と平和とををもたらす」とはどういうことか？
答「経済（＝それ）は、時に戦争を惹き起こし、時に平和維持を目指す**誘因**（KW）となるということ。」
（例） 問「言語は、単なる思考の伝達手段ではない」というのはなぜか？
答「言語は、思考の成立自体を可能とする**思考の要素**（KW）であるから。」
- ③ 表現の適切さ（一般性）……比喩・具体例・特殊なニュアンスの「 」などを用いず、**一般的表現**を用いているか
（例） 本文中の表現「同じように泣いたり笑ったりすることで、我々は、お互い、「似た者同士」であると信じる」
解答中の表現「感情表出の仕方が共有されることで、人間は、相互の類似性による**信頼が獲得される**」

〈設問タイプ別 解答法〉

【1】**同義置換**（どういうことか説明せよ） 最も基本的で重要な設問タイプ

- ① 設問要求と解答条件の確認 ＊「どういうことか」「どのようなものか」等の違いも解答内容と表現に反映する
「傍線部は、どういうこと（意味）か」（同義置換の設問要求） → 傍線部の本文中における定義（意味）の説明
（例）傍線部「歴史をそのように理解することは、ひとつの暴力である」とはどういうことか。
② 設問要求と傍線部を含む一文とから、正解の構文を確立する → 主（は） — 述（～である）ということ。
（例）「歴史を～（＝そのように＝指示対象）」と理解することは、……（ひとつの暴力＝比喩の置換）である」
→ 「歴史を～と見ることは、……であるということ。」 ＊解答の構文は**傍線部と論理的に一致すればよい**
- ③ ②で確立した構文に本文中の「指示対象」「KW」を適用する
（例）「歴史を支配権力の推移とみなすことは、少数者の存在の価値を強引に拒否する不当な態度であるということ。」
→ 本文中の指示対象・KWをほぼそのまま抜き出して使用した場合（49字の解答）
- ④ 字数調整（解答要素の追加や表現の調整）・選択肢の絞り込み
（例）記述式の場合（上記③の例 字数49字） ＊「制限字数の8割」ではない。制限内で書くべき内容を書く
a「50字以内で説明せよ」→ 解答終了
b「40字以内で説明せよ」→ 9字以上削減
→ 「歴史を支配権力の推移と見るのは、少数者の価値の強引な拒否であり不当だということ。」（40字）
c「70字以内で説明せよ」→ 追加する解答要素の検討（約20字分・約1分間で検討）
→ **追加要素1** 傍線部中に置換しきれていない未解答部分が残っていないか（とりわけ傍線部末尾の表現）
→ **追加要素2** 傍線部を含む一文中に置換しきれていない未解答部分が残っていないか（接続語・副詞句等）
→ **追加要素3** 傍線部を含む意味段落中に回収しきれていないKWが残っていないか（解答の定義・論拠）
「歴史を支配権力の推移とみなすことは、権力中枢の多数派のみへの着眼であるから、少数者の存在の価値を強引に拒否する不当な態度であるということ。」（論拠の追加 69字）
- （例）選択式の場合
主＝指示内容「（歴史を）支配権力の推移（とみなすことは）」 → 3個の選択肢（①・③・⑤）が妥当
述＝KW「少数者の存在の権利を強引に拒否して不当である」 → 2個の選択肢（②・⑤）が妥当
→ ⑤に確定
確定しきれない場合 → 傍線部を含む一文中の他の要素と、残った選択肢中の他の要素との対応関係で判断
- ⑤ 最終的なアウト・プット（解答を書く・マークする） ＊解答要素を書くために要する時間を確保すること
→ 記述作業自体の時間は約60字（14cm解答欄2行分）につき約2分（選択式は1問の解答時間全体で約90秒）

【2】**理由説明**（なぜか説明せよ）

- ① 設問要求と解答条件の確認
「傍線部は、なぜか」（理由説明の設問要求） → 傍線部の本文中における論拠・動機・原因の説明
（例1）傍線部「文化を固定的に実体視するのは誤りである」とあるが、なぜか （論拠型）
（例2）傍線部「少年は何も言わずに立ち去った」とあるが、なぜか （動機・意図型）
（例3）傍線部「日本のグローバル化対応は著しい遅れをとっている」とあるが、なぜか （原因型）
- ② 傍線部を含む一文の構文確認から理由のタイプを判定 → 3類型に応じた解答導出過程と解答形式がある
＊ただし、傍線部を含む一文中に**接続語や限定条件**があれば、まずそれらを踏まえて解く（より基礎的な事項）
（例）傍線部「したがって、Aは Bである」 → 「したがって」の前件を確認（接続語）
（例）傍線部「その意味では、Aは Bである」 → 「その（意味では）」の内容確認（限定条件）
- （Ⅰ）**論拠型**：評論に多出 **傍線部の主題（A）に着眼**・同じ主題についてのKW（C）を本文中で求める
問 Aは（主題） Bである（判断） （なぜそうと言えるのか）
答 Aは（主題） Cだ（前提判断）から（Bであると言える）
（例1）問 傍線部「文化を固定的に実体視するのは誤りである」とあるが、なぜか
＊構文の簡略化 → 文化は、固定的に実体視する（べき）ものではない（Aは Bである）
答 文化は、社会の変化や異文化との接触を通じ、常に動的に変化するものであるから。（Aは Cだから）
- （Ⅱ）**動機・意図型**：小説に多出 **主語（S）の傍線部時点での心情（Q）**を本文中で求める
問 Sが（行為主体） Pした（言動・心情） （なぜそのようにしたのか）
答 Sは（行為主体） Qだ（動機・意図）から（Pした）
（例2）問 傍線部「少年は何も言わずに立ち去った」とあるが、なぜか
答 少年は友人たちの態度を見て、本心を説明しようと留まっても無駄だと感じたから。（Sは Qだから）
- （Ⅲ）**原因型**：出題頻度は低い
問 E（ある事実・現象・結果 t₂）が 生じる（起こる・～になる） （なぜそうなるのか）
答 C（原因・先行事象 t₁）が 生じたから（Eが生じる・になる）
（例3）問 傍線部「日本のグローバル化対応は著しい遅れをとっている」とあるが、なぜか
答 日本の行政実務家たちが旧弊な国内政権の意向ばかり配慮していたから。（Cが 生じたから）

【3】**要旨要約型設問**（本文全体の趣旨を踏まえて説明せよ）

- ① 設問要求と解答条件の確認（要旨要約型設問への気づき） ＊最終設問・最大字数・特殊な設問表現・形式など
② 設問要求と傍線部を含む一文とから、まず、設問に直接応答する解答文（最終解答センテンス）を確立する
＊解答は、しばしば字数が大きいので、100字超であれば、原則として2文（以上）で作成する。
（例） 問 傍線部「課題は常に解決されつつある」について、本文全体の趣旨を踏まえて120字以内で説明せよ。
暫定的解答 事柄が解決すべき課題と意識されるとき、既にそう意識させるほどのより良い状態を実現可能な社会条件が常に成立しているということ。（暫定62字 残り約50～60字）
- ③ ②で確立した解答内容を説明している意味段落（結論段落など）の直前までの全体要旨を通覧し再確認する
＊最初に本文全体を通読している。次に、ここまでの各設問を解いてきたので、その過程で各意味段落の部分要旨をある程度把握している。ここで再度全体を通覧し、**②の暫定解答に至るまでの「要旨」を約60字分抽出**する。
（例）**主題**「（貧困・格差・分断など）今日の多様な社会問題について」
定義「それらは社会の経済的、政治的な不均衡によって本質的に生じてくる問題と考えられる」
論拠「課題意識は、その事柄が現在の社会条件で実現可能な最良の状態より劣るとき、社会に生まれる」
結論「課題は常に解決されつつある」（傍線部）
前半要旨の抽出 今日の社会において生じている多様な問題は、社会の経済的、政治的な不均衡によって本質的に生じてくると考えられる。（55字 ← この例では60字までの1文にまとめる）
- ④ 最終的な全体解答の作成（③の文。＋（可能であれば適切な接続語。）＋②の文。の形でまとめる）
（例）今日の社会において生じている多様な問題は、社会の経済的、政治的な不均衡によって本質的に生じてくると考えられる。そして、それらが解決課題と意識されるときは、既にそう意識させるほどのより良い状態を実現可能な社会条件が常に成立しているということ。（120字）